

2年ぶりのレース！2年ぶりに響いた歓声！

# 第43回東和ロードレース大会

夏の訪れを告げるロードレース大会。今年の大会には約3,000人のランナーが参加、それぞれの思いを胸にアジサイの花咲く起伏に富んだ難コースへ挑みました。  
沿道にも大勢の応援の方が集い2年分の声援を選手に送っていました。



1 上り坂下り坂を越えてゴールまであと数百メートル、最後の力走 2 ゼッケンをつけてスタートを待ちます 3 1,107人が出場したハーフマラソンの部スタート 4 招待選手(駒澤大学)猪浦選手は貫禄の走りを披露 5 走り終えての充実の笑顔 6 優勝を目指して全力でスタート 7 親子手をつないで栄光のゴール



7月1日の大会当日は、気温26度・湿度68%(午後10時)とランナーにとっては走りやすい条件となりました。  
この好条件もあり、6部門で12人の選手が大会新記録を樹立するという記録的な大会となりました。



大会を支えるスタッフ・選手を後押しする声援

高校生やボーイスカウトのボランティアスタッフを含め、600人を超えるスタッフの力により大会は運営されています。

また、沿道からの皆さんの声援がランナーの力強い走りをサポートしています。

8 大会会長三保市長の号砲で大会がスタート  
 9 手作りのボードで選手を応援 10「頑張ってください」給水用スポンジを手渡す子どもたち  
 11 上り坂での給水、本当にありがたい 12 ゴールテープを持ち選手を待つ遠藤さん、尾形さん  
 13 選手の皆さん、さあ！給水をどうぞ！ 14 最大の難所！「あじさい寺」前の上り坂、温かい目で見守ります



**もう一つの熱い戦い  
 ホノルルマラソン抽選会**

ハーフマラソン完走者を対象に行われた恒例のホノルルマラソン抽選(じゃんけん)会。

熱気を帯びた旧下太田小学校体育館での激戦を制したのは南相馬市の市川さん、見事ホノルルへの切符を手に入れました。



**【ホノルルマラソンへの意気込み】**

私は地震と原発事故の影響で、一時は避難を余儀なくされておりましたが、現在は自宅に戻り走り込んで大会に挑みました。

今大会を走ったランナー、二本松市民の皆さん、福島県民の皆さんの思いを胸に全力でホノルルマラソンを走ってきます。